

(限 内 部)

海軍公報 (部内限) 第四千九號

昭和十七年二月二日 (月) 海軍大臣官房

○ 令 達

官房第三七七號

報國號飛行機命名式左ノ通施行ス

昭和十七年一月二十四日

海軍大臣

一 命名式舉行日時、場所

日時 昭和十七年二月二十八日 (土曜日)

場所 東京市日比谷公會堂 一三〇〇 (晴雨不拘)

二 命名スベキ飛行機番號、名稱機種、献納者住所氏名

報國番號	名	稱	機	種	献納者住所氏名
第五二六號	罐詰	號	艦上	戰闘機	東京市日本橋區通一丁目四番地、罐詰會社分商店内、罐詰會社分商店内、會長國分勘兵衛
第五四九號	順英	號	艦上	戰闘機	東京市小石川區指ヶ谷町八九番地 澁谷良英
第五三四號	曹洞宗	號	艦上	戰闘機	東京市芝區新堀町三六、曹洞宗宗務院曹洞宗、管長 秦 慧昭
第五四四號	日本高級	塗料	艦上	戰闘機	東京市澁谷區幡ヶ谷俵塚町九八八、日本高級塗料株式會社、取締役 手塚千代吉
第五四七號	第一日	サルヴェーシ	艦上	戰闘機	東京市麴町區丸ノ内一ノ六、第一日サルヴェーシ株式會社、取締役 田代佐八
第五四八號	第二日	サルヴェーシ	艦上	戰闘機	東京市本所區練馬町二ノ四、第二日サルヴェーシ株式會社、代表 木村太郎吉
第五五三號	東京莫大	丸生地	艦上	戰闘機	東京市本所區練馬町二ノ四、丸生地工業組合、代表 木村太郎吉
第五五四號	第一水	葉	艦上	戰闘機	千葉縣内、千葉縣水産會
第五五五號	第二水	葉	艦上	戰闘機	千葉縣水産會
第五五六號	第三水	葉	艦上	戰闘機	千葉縣水産會、代表 藤原孝夫

海軍公報 (部内限) 第四千九號 昭和十七年二月二日

一〇九



第五九號 スナップ 艦上戦闘機
 東京市日本橋區馬喰町二
 東京卸商業組合
 代表 伊藤彌三郎

三 命名式主務廳 海軍省軍務局
 四 命名式委員長 海軍省軍務局第四課長

官房機密第一四〇八號 昭十七年二月二日
 當分ノ間海軍會計規程第三十九號ノ規定ニ拘ラズ大連
 在勤海軍武官府ニ要スル給與及其ノ他ノ經費支拂ハ旅
 順特別根據地隊主計長ヲシテ之ヲ掌理セシム
 令ハ一月十五日ヨリ之ヲ適用ス
 昭和十七年一月三十一日

海軍大臣

官房第五二三號
 購買名簿調査委員會規程中左ノ通改正ス
 昭和十七年二月二日

第三條第二項中「海軍艦政本部部長 十二人」ヲ「海
 軍艦政本部部長 十三人」ニ改ム
 海軍大臣

○ 通牒

兵備機密第一九一號
 昭和十七年二月一日

海軍省兵備局長
 海軍省人事局長

關係各廳長殿
 海軍軍屬トシテ從軍中ノ海陸軍在郷軍人ノ
 兵役事務取扱ノ件申進

廳長(戰地ニ在ル特設ノ廳ヲ含ム)ハ從軍中ノ部下海
 軍軍屬(宣誓軍屬ヲ含ム)タル海陸軍在郷軍人ヲ調査
 シ別紙様式ノ名簿ヲ調製ノ上左記ニ依リ通報スルコト
 ニ定メラレ候

記

陸軍	通 報 先 區 分	
	海軍省人事局長	豫備士官
海軍	在籍鎮守府ノ海軍人事部長	右以外
	陸軍省人事局長	將官
陸軍	本籍地聯隊區司令官	右以外
		官

(別紙二葉添)

○ 辭令

海軍艦政本部造船監督官兼造兵監督官
海軍航空本部造兵監督官海軍機關大佐

川岡 三十郎

富山監理官ヲ命ス

横田 康男

海軍軍醫學生ヲ免ス(以上二名海軍省)

海軍造船中佐 鹽山 策一

長崎海軍監督官事務所及受持区域内ニ在ル艀裝員事務所ニ要スル俸給、旅費及手當支拂ノ爲資金前渡官吏ヲ命ス

海軍機關中佐 竹内 悌三

資金前渡官吏ヲ免ス(二名支出官 海軍省經理局長)

○ 雜款

○普通軍事發育圖書

昭和十六年十一月中納庫セル普通軍事教育圖書左ノ如シ

(海軍文庫)

圖書名

標記番號

類別

ソ聯邦總覽

消耗品扱

熱帯衛生必携

消耗品扱

横須賀、吳、佐世保、舞鶴各鎮守府文庫共納庫

○普通軍事教育圖書

昭和十六年十二月中納庫セル普通軍事教育圖書左ノ如シ

(海軍文庫)

圖書名

標記番號

類別

支那忠勇列傳 陸軍之部 第九卷

第三四四號拾九

備品

南洋方面ニ於ケル海中作業上ノ注意事項

第一四九七號

備品

回離取扱參考書

第一四五〇號

消耗品

ブラツセー海軍年鑑 一九四一年版

第一六七四號

消耗品

支那畫 忠錄 第三卷

第一三四七號參

備品

世界興廢 人類政治闘争史總觀 第七卷

第一六八〇號四

消耗品

世界興廢 日本歴史 八幡船、倭寇

第一六八〇號一

消耗品

世界興廢 日本歴史 薩國

同

消耗品

世界興廢 日本歴史 北清事變

同

消耗品

海軍公報(部内限)第四千九號 昭和十七年二月二日

世界興廢 大戰史 西洋戰史 獨立戦争 イタリア	世界興廢 大戰史 西洋戰史 百年戦争史	世界興廢 大戰史 西洋戰史 普埃戦争	世界興廢 大戰史 西洋戰史 イギリス 革命戦争史	世界興廢 大戰史 西洋戰史 上代西南 アジア戦史	世界興廢 大戰史 西洋戰史 フランス 大革命	世界興廢 大戰史 東洋戰史 南洋白人 抑取史	世界興廢 大戰史 東洋戰史 南洋民族 侵略史	世界興廢 大戰史 東洋戰史 成吉思汗 戦史	世界興廢 大戰史 東洋戰史 戰國時代 支那	世界興廢 大戰史 東洋戰史 支那春秋 時代戦史	世界興廢 大戰史 日本歴史 日清戦争 上	世界興廢 大戰史 日本歴史 日清戦争 下	世界興廢 大戰史 日本歴史 元寇	世界興廢 大戰史 日本歴史 大阪落城譜
同	同	同	同	同	海軍省 第一六八〇號 普及	同	同	同	同	海軍省 第一六八〇號 普及	同	同	同	同
消耗品	消耗品	消耗品	消耗品	消耗品	消耗品	消耗品	消耗品	消耗品	消耗品	消耗品	消耗品	消耗品	消耗品	消耗品
食養講義録、食養學原論	食養講義録、食養學序論	世界興廢 大戰史 世界戦史 一九三六年 二	世界興廢 大戰史 世界戦史 一九三六年 一	世界興廢 大戰史 西洋戦史 ノ二 歐洲大戦下	世界興廢 大戰史 西洋戦史 ノ一 歐洲大戦中	世界興廢 大戰史 西洋戦史 ノ四 歐洲大戦中	世界興廢 大戰史 西洋戦史 ノ三 歐洲大戦中	世界興廢 大戰史 西洋戦史 ノ二 歐洲大戦中	世界興廢 大戰史 西洋戦史 ノ一 歐洲大戦中	世界興廢 大戰史 西洋戦史 歐洲大戦上	世界興廢 大戰史 西洋戦史 ナポレオン 戦争上	世界興廢 大戰史 西洋戦史 七年戦争史	世界興廢 大戰史 西洋戦史 ポエニ戦争	世界興廢 大戰史 西洋戦史 ベルシア、 ギリシア戦争
同	海軍省 第一六七九號 普及	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同
消耗品	消耗品	消耗品	消耗品	消耗品	消耗品	消耗品	消耗品	消耗品	消耗品	消耗品	消耗品	消耗品	消耗品	消耗品

一一二

食養講義録、食養療法	上	同	消耗品
食養講義録、食養療法	下	同	消耗品
食養講義録、食養料理法	同	同	消耗品

○事務所設置

第一監視艇隊設立事務所ヲ一月三十日海軍水雷學校内ニ設置シ事務ヲ開始セリ

追テ郵便物ハ左ニ依リ發送相成度

二月十五日迄ニ到達見込ノモノハ

其ノ後ハ
海軍水雷學校氣付
横須賀郵便局氣付
(第一監視艇隊設立事務所)

○事務取扱ニ關スル件照會

昭和十七年一月十五日附漢口海軍特務部廢止セラレ其ノ業務ハ第一遣支艦隊司令部ニ引繼ギ行フコトナリタルモ當分舊海軍特務部ニ於テ之ガ處理ニ當リ二月一日以降漢口駐在海軍武官府ニ於テ一切管掌スルコトニ定メラレ候條同日以降特務部關係書類ハ當地海軍武官府宛直送方取計ハレ度

(第一遣支艦隊副官)

○特設運送船木曾丸ニ要スル給與ハ第九根據地隊主計長、特設運送船第二號春日丸ニ要スル給與ハ第十一

特別根據地隊主計長ヲシテ之ヲ掌理セシム
(第一南遣艦隊司令長官)

海軍公報(部内限) 第四千九號 昭和十七年二月二日

一一三

別紙第一（海軍）

（昭和十七年二月二日海軍公報（部内限））

從軍中ノ海軍軍屬タル海軍在郷軍人名簿

昭和年月日
應 名調

士官ノ部（何鎮守府特務士官准士官之部）

現官（職）名	記	事	本	籍	地	役	種	官	職	氏	名

備考

一、本名簿ハ士官、豫備士官、特務士官准士官、豫備准士官、下士官兵、豫備下士官兵各別紙ニ調製スルモノトス

二、異動ノ際ハ記事欄ニ異動年月日及理由ヲ記載ノ上其ノ都度通報スルモノトス

別紙第二(陸軍)

(昭和十七年二月二日海軍公報(部内限))

從軍中ノ海軍軍屬タル陸軍在郷軍人名簿

昭和年月日
應 名調

第何師何聯隊區管内佐尉官(准士官下士官、兵)ノ部

現官(職)名	役種	兵種	徵集年	官等級	本籍地	氏名
囑託	豫	歩兵	大正一五	伍長	何縣何郡何町村何番地	何某
通譯	二補	輜	昭二	二等兵	何市何町何番地	何某
海軍書記	豫	歩兵	昭五	一等兵	何市何町何番地	何某
工員	一補	工兵		上等兵	何市何町何番地	何某

備考

- 一、本名簿ハ佐尉官、准士官下士官、兵毎ニ及本人本籍地所管ノ聯隊區毎ニ別紙ニ調製スルモノトス
- 二、爾後ニ於ケル異動通報ニ於テハ備考欄ヲ設ケ異動年月日及追加、削除ノ理由ヲ記載ノ上其ノ都度通報スルモノトス

(限 内 部)

海軍公報 (部内限) 第四千十號

○ 令 達

官房第五三〇號

昭和十二年官房第四四九六號中左ノ通改正ス

昭和十七年二月三日

海 軍 大 臣

表中第五海軍軍用郵便所ノ項職員ノ欄所員「專任三人判任」ヲ「專任四人判任」ニ、第二十五海軍軍用郵便所ノ項所管ノ欄「佐世保鎮守府」ヲ「吳鎮守府」ニ、第四十三海軍軍用郵便所ノ項設置所ノ欄「第三南遣艦隊ノ一艦」ヲ「第三十一特別根據地隊内」ニ改ム

(参照) 昭和十二年官房第四四九六號ハ海軍軍用郵便所設置ノ件ナリ (昭和十六年十二月二十六日及同十七年一月十日海軍公報 (部内限))

○ 辭 令

昭和十七年二月三日 (火)
海軍大臣官房

○昭和十七年一月十五日

海軍大將子爵 加藤 隆義

敍正三位

海軍機關中佐 渡部 正春

敍從五位

海軍特務中尉 板谷 彌吉

敍從六位

海軍技師 多田 美明

同 荒谷 勝三郎

同 織田 圭一

同 豐永 信夫

同 鶴澤 利助

同 三村 良雄

同 田代 丑三

同 岡崎 鼎

同 佐藤 忠四郎

同 三浦 清

同 前田 敏

(各通)

海軍公報 (部内限) 第四千十號 昭和十七年二月三日

一一五

敘正八位

(各通)

同 同 同 同 同 同 同 同 同 同 同 同 同 同 同 同 同 同

藤田 喜一
春成 富雄
三浦 敦郎
中林 文吾
竹内 正良
神保 茂長
萱原 勳
潤米 長信
中村 文彦
宮田 武義
葉山 政見

野村 長
北山 忠彦
杉崎 喬
高橋 保夫
大津 任
奈良本 芳夫
志賀 賢二
佐藤 公一

海軍豫備學生(兵科)
命ス(海軍省)

同 同

成島 廣悦
色部 良三
村上 次男
廣瀬 研自
滑川 民藏
深川 保雄
笠川 勝保
柴 勝光
伊東 一彦
鈴木 忠男
黒川 和直
松村 敏行
古澤 登
青山 幸道
加賀山 國雄
南部 鐵雄
山田 彦雄
森 芳夫
高松 實典
須藤 正久

海軍公報(部内限)第四千十號 昭和十七年二月三日

同同同同同同同同同同同同同同同同同同同同同同同

鍋島日出男 長妻喜重 高嶋靜男 豐永實 岩田精一 小坂美智雄 清水金司 牛窪敏夫 栢木一男 岡崎達雄 古莊英男 木下一周 相田康明 吉田毅 角田昇 熊谷季雄 山下助一 佐谷健吉 伊藤鈴男 守岡陽一 堀光太郎

(各通)

同同同同同同同同同同同同同同同同同同同同同同同

關根行也 猪木省吾 藤森則夫 竹中親道 荒川完 西田廉平 毛利義明 賀田穰 遠藤亨 山口政承 田中哲 渡邊聰四郎 細田一郎 濱田實 後藤政行 詫摩昌美 佐野正太郎 大野隆正 鈴木繁雄 神保皆生 間信齋

<p>海軍豫備學生(兵科)ヲ命ス(三三〇同) 鈴木信光</p>	<p>海軍豫備學生(兵科)ヲ命ス(三三〇同) 平山幹雄</p>	<p>海軍艦政本部造船監督官兼 造兵監督官海軍航空本部造 兵監督官海軍機關大佐 中島一郎</p>	<p>大阪監理官ヲ命ス 大阪監査官ヲ命ス 松村積徳</p>	<p>名古屋監理官ヲ命ス 名古屋監査官ヲ命ス 同 清水晋太郎</p>	<p>海軍航空本部技術會議議員ヲ命ス 海軍技術會議議員海軍技師 太由善一郎</p>	<p>海軍艦政本部技術會議議員ヲ命ス(以上三三〇同)</p>	<p>○雜款 ○郵便物發送先 自今左ニ依リ發送相成度</p>		
<p>佐世保郵便局氣付 (第百一海軍航空廠) 鹿兒島縣出水郡出水町 (佐世保海軍航空隊出水分遣隊)</p>	<p>○書類宛名ニ關スル件 當隊へ送付ノ書類ニシテ宛名ヲ分遣隊指揮官トスル向 有之モ自今必ス分遣隊長ト記名相成度 (佐世保海軍航空隊出水分遣隊)</p>	<p>○事務所撤去 第百一海軍工作部事務所ヲ一月二十八日撤去セリ</p>	<p>○取消 一月二十六日辭令欄中海軍主計大佐上野政雄辭令ヲ取 消ス</p>	<p>○正誤 一月二十六日通牒欄中「兵備勞第一七一號」ハ「兵備 勞機密第一七一號」ノ誤</p>					

海軍公報(部内限) 第四千十號 昭和十七年二月三日

一一一

海軍公報 (部内限) 第四千十一號

昭和十七年二月四日(水)
海軍大臣官房

○令 達

海軍部
則登載

官房第五三二號
昭和九年官房第四三三六號中左ノ通改正ス

海軍大臣

「收容治療ニ關スル件」ノ下ニ「及現役海軍軍人及軍屬家族收容規則」ヲ、「特設海軍病院(艦船内ニ置カレタルモノヲ除ク)」ノ下ニ「其ノ他指定ノ海軍病院等ナキ地ニ在ル特設海軍部隊」ヲ加フ

参照 昭和九年官房第四三三六號ハ大正十二年達第六十八號現役軍人又ハ軍屬ト同一ノ家ニ在ル者ヲ收容治療ニ關スル件ハ特設海軍病院ニ準用スルコトヲ得ルノ件ナリ(條例別卷三、九八四頁)

官房第五四五號
昭和十六年官房第四三四號中「防備隊」ノ下ニ「警備隊」ヲ加フ
昭和十七年二月四日

海軍公報(部内限) 第四千十一號 昭和十七年二月四日

参照 昭和十六年官房第四三四號ハ雜役船ニ對シ船體機關及兵器修理用材料供給ノ件ナリ(昭和十六年八月十四日海軍公報(部内限))

○辭 令

海軍大臣

臺灣臺北州公立國民學校訓導	伊藤 久之
同	宮良 賢貞
同	米滿 行哉
同	戴 興 球
臺灣新竹州公立國民學校訓導	吉村 嘉壽龜
臺灣公立國民學校訓導	木村 喜和三
同	岡本 忠士
同	古山 高次郎
同	吉富 正義
同	河野 秀志
同	張 世 椅
同	上野 克巳

(各通)

一一三

臺灣臺南州公立國民學校訓導 吉田 碩男

臺灣公立國民學校訓導 村上 信太郎

臺灣臺南州公立國民學校訓導 小林 義政

臺灣高雄州公立國民學校訓導 中村 公太郎

同 播 摩 功

臺灣公立國民學校訓導 林 廣 生

臺灣臺東廳公立國民學校訓導 新納 兼德

臺灣公立國民學校訓導 玉川 武藏

海南警備府附ヲ命ス(三才海軍省)

水路部附兼上海海軍
軟路部附海軍技手 丸山 正巳

主トシテ兼務廳ニ於テ服務スヘシ(三才水路部長)

○ 雜 款

○ 旗艦變更

第二十二戰隊司令官ハ一月三十日旗艦ヲ赤城丸ニ變更セリ

○ 司令驅逐艦變更

第三十二驅逐隊司令ハ二月二日司令驅逐艦ヲ芙蓉ヨリ刈萱ニ變更セリ

○ 郵便物發送先

自今左ニ依リ發送相成度

本隊宛

派遣隊宛

尙兩隊間ノ連絡困難ナル現狀ニ付公報、練習生試驗問題等必要書類ハ各別ニ發送相成度

(第十九航空隊)

海軍公報 (部内限) 第四千十二號

昭和十七年二月五日 (木)

海軍大臣官房

○令達

(限 内)



官房機密第一五四六號 昭和十七年二月五日
 當分ノ間艦船部隊ニ於テ急速行動ノ必要アル場合又ハ
 軍人軍屬ノ轉勤等ニ際シ經費掌理者ト同所ニ在ラザル
 爲著シク支障アル場合ニ於テハ給與其ノ他ノ經費ノ支
 拂ハ海軍會計規程其ノ他ノ規定ニ拘ラズ最寄海軍經理
 部 (特設海軍經理部ヲ含ム) ニ於テ臨時之ヲ掌理スル
 コトヲ得
 前項ノ支拂ヲ爲シタル場合ニ於テハ海軍經理部長ハ支
 拂證憑書類ノ寫 (轉勤ノ場合ハ轉勤先ニ對スル給與通
 牒ノ寫共) ヲ添ヘ其ノ旨速ニ原經費掌理者ニ通知ス
 シ
 昭和十七年二月四日
 海軍大臣

中「六月三十日」ヲ「九月一日」ニ、同修業豫定期日
 ノ欄中「十月上旬」ヲ「十二月上旬」ニ改ム
 昭和十七年二月五日
 海軍大臣
(昭和十六年七月一日本欄参照)

○通牒
 官房第五八〇號 昭和十七年二月五日
 昭和十七年二月五日
 海軍省副官

自然
 關係各廳長殿
 戰死者等ノ定義ニ關スル件通牒
 戰死者等ノ定義明確ナラズ從テ之ガ取扱竝ニ待遇ハ區
 ヲニ亘リ疑義アル向勘カラザルヤニ被存候處自今部内
 ニ於テハ左記ニ依ルコトニ定メラレ候條了知相成度
 記
 一 戰傷及戰病ノ定義

官房機密第一五七三號

昭和十六年官房機密第五七八七號第二號入圍期日ノ欄

海軍公報 (部内限) 第四千十二號 昭和十七年二月五日

一二五

1197

(イ)

戰傷トハ左ノ各號ノ一ニ該當スルモノヲ謂フ
(一) 戰地又ハ事變地ニ於テ敵ノ使用シタル兵器ニ
因リ被リタル損傷

(例) 刺創、銃創、砲創、爆彈創、爆傷、熱傷
等

(二)

戰地又ハ事變地ニ於テ彼我直接ノ戰闘手段ニ
因ル損傷及對敵行動中ノ不慮ニ因ル傷害
哨戒、偵察又ハ搜索任務ニ在ル航空機ノ行動ハ
之ヲ前項ノ對敵行動ト看做ス
會敵ヲ豫期スル艦船ノ行動ハ之ヲ對敵行動ト看
做スコトヲ得

(例) (1) 敵ノ投擲物(兵器ヲ除ク)又ハ敵ト
ノ格闘ニ因リ被リタル外傷、砲(銃)

撃、爆撃、雷撃又ハ敵ノ設置若ハ遺棄
シタル危険物等ノ爲ニ生シタル艦船、
航空機、建築物、車馬等ノ沈没、不時
着、破壊、轉覆等ニ因ル溺水、外傷等
(2) 襲撃直前ニ於ケル味方艦艇相互ノ衝
突、交戦時間延伸ニ依リ歸途ニ於テ燃
料不足セル航空機ノ不時着等ニ因ル溺
水、外傷等

(解釋)

「對敵行動」トハ作戦行動中敵ト相
對スル場合ニシテ戰闘及之ニ直接關
聯スル行動ヲ謂フ例ヘバ航空機ガ攻
撃ノ目的ヲ以テ發進シテヨリ歸着ス
ルマデノ行動ハ之ニ該當スルモ單ナ
ル航空兵力集中移動ノ爲ノ行動ハ之
ニ該當セズ

「不慮」トハ急迫状態ニ在ルガ爲ニ
生起スル不可抗力ヲ謂フ

(三) 戰地又ハ事變地ニ於テ原因敵ノ謀略ニアリト
確認セラレタル疾病

(例) 細菌兵器ニ因ル疾病、毒物嚙下ニ因ル中
毒等

(四) 戰地、事變地以外ノ地ニ於テ海軍作戦部隊指
揮官ノ指揮下ニ在リテ對敵行動中ノモノニ在リ

テハ(一)、(二)及(三)號ヲ適用ス

(ロ) 戰病トハ戰地又ハ事變地ニ於テ公務ニ因リ受傷
若ハ罹病セル傷痍疾病(内地歸還後發病セルモノ
ヲ含ム)ニシテ戰傷ニアラザルモノヲ謂フ

(註) 右ノ解釋ニ基ク取扱例左ノ如シ

<p>(イ) 戦死ハ戦病死等ノ定義 戦死トハ戦闘中即死シタルモノ及病院船若ハ最寄陸上收療施設(治療所ヲ謂ヒ傷者收容所、縋帶所等ヲ含マズ)ニ收容セラルル迄ニ戦傷ニ起因シ死亡シタルモノヲ謂フ</p> <p>(ロ) 戦傷ニ因リトハ戦傷ノ悪化ニ因ルモノ、瓦斯瘴疽、破傷風等ノ創傷傳染病ニ因ルモノ、毒瓦斯ニ因ル肺炎ニ因ルモノ等ヲ含ムモノトス</p> <p>(ハ) 戦傷死トハ病院船又ハ最寄陸上收療施設ニ收容セラレタル以後ニ於テ直接戦傷ニ起因シ死亡シタルモノヲ謂フ</p> <p>(ニ) 戦病死トハ戦病ニ起因シ死亡シタルモノヲ謂フ</p>	<p>(1) 戦地勤務三箇月以上ニ及ビタル者内地歸還後六箇月以内ニ發病(結核性疾患ニ限ル)セルモノハ戦病トナル</p> <p>(2) 占領地ノ市街ヲ公務ニテ通行中(對敵行動ニアラズ)銃創ヲ受ケタル場合其レガ敵ノ狙撃ナルコトヲ確認シ得レバ(イ)一號ニ該當スル戦傷ナルモ確認シ得ザレバ(ロ)號ニ依ル戦病トナル</p> <p>(ニ) 外國ト交戦期間中ニ於テ戦地、事變地以外ノ地ニ在リテ勤務中(制規ニ依ル上陸(退艦)歸艦(出動)ノ爲ノ往復時ヲ含マズ)若ハ公務旅行中(直接公務ニ携ハリアル期間及乗車、乗船、搭乘中ノ期間ニ限ル)敵ノ兵器ニ因リ傷痕ヲ受ケ若ハ疾病ニ罹リタル者ハ戦傷ニ、又之ガ爲死亡セル者ハ戦死ニ準ズル扱トス</p> <p>前項ノ場合ニ於テ戦闘ヲ直接ノ原因トスル不慮ノ爲ニ傷痕ヲ受ケタル者又ハ之ガ爲死亡スルニ至リタル者ニ付又同ジ</p> <p>戦死ニ準ズル者ノ弔慰等ニ關シテハ戦死者ニ準ズルモノトス</p>
<p>經豫機密第三號ノ二一 昭和十七年二月四日</p> <p>海軍省 經理局長</p> <p>關係各廳長殿</p> <p>中支向隊伍旅行者等ノ日本通貨携帶抑制ニ關スル件照會</p> <p>從來中支方面向隊伍旅行者及海軍艦船便乘者ハ現地到着後其ノ携帶スル日本通貨ヲ軍用手票ト交換シ差支ナキコトト相成居候處最近上海等ノ一般市場ニ於テ關取</p>	<p>經豫機密第三號ノ二一 昭和十七年二月四日</p> <p>海軍省 經理局長</p> <p>關係各廳長殿</p> <p>中支向隊伍旅行者等ノ日本通貨携帶抑制ニ關スル件照會</p> <p>從來中支方面向隊伍旅行者及海軍艦船便乘者ハ現地到着後其ノ携帶スル日本通貨ヲ軍用手票ト交換シ差支ナキコトト相成居候處最近上海等ノ一般市場ニ於テ關取</p>

海軍公報(部内限) 第四千十二號 昭和十七年二月五日

一二七

引ニ依リ邦貨ヲ惡用セラルル傾向アルヲ以テ現地當局ニ於テハ邦貨ノ放出ハ極力抑制スル方針ニテ努力中ノ趣ニ付自今旅行者ハ出發前海兵團等ニ於テ又ハ便乘艦船内ニ於テ取纏メ軍用手票ト交換スルカ若クハ郵便貯金、爲替、信用狀等適宜ノ方法ニ依リ日本通貨ヲ現地ニ持入ラザル様取計相成度

經物第二九號

昭和十七年二月五日

海軍省經理局長

關係各廳長殿

前金拂又ハ概算拂契約者ニ關スル件通知

昭和十三年三月經物第一〇六號第一項第四號ニ依ル首題ノ件左記ノ通承認致候

記

中島機械株式會社	東京市芝區三田豐岡町一番地
箕浦重工業株式會社	大阪府布施市高井田中二丁目三四番地
日本ビテヌマルス株式會社	東京市麴町區丸ノ内二丁目八番地
豐橋精機株式會社	豐橋市花田町字久保田六六番地

株式會社綾部製作所

京都府何鹿郡綾部町大字綾部町小字本町七丁目五五番地

前田武二

平塚府山手町二七番地

久保瀧次

朝鮮平安南道江東郡晚達面勝湖里一二二番地

東太吉

平塚府泉町四番地ノ二

株式會社林兼商店

下關市竹崎町六一番地

日南産業株式會社

東京市芝區芝公園第四號地四番

株式會社藤井製作所

東京市蒲田區東六郷二丁目一八番地

○ 辭 令

(各通)

海軍中佐	林田 綱雄
同	有泉龍之助
同	清水 洋
恩賜研學資金受賞者銓衡常置委員ヲ命ス	
海軍軍醫少將	神林 美治
海軍大佐	田口 太郎
同	塚田 英夫
海軍中佐	田村 三郎
同	堀之内 美義

昭和一十七年度恩賜研學資金受賞者銓衡臨時委員ヲ命ス(以上 <small>十</small> 海軍省)	
海軍機關少佐 中村 威	海軍機關大佐 大久保 信
同 小田島 祥吉	同 稻岡 新
海軍主計大佐 島津 惣次	同 前川 宗太郎
同 林 雄二	同 熊谷 善男
海軍主計少佐 吉岡 秀之	海軍造兵中佐 山本 尙義
海軍機關中佐 川村 宏矣	購買名簿調査委員會委員ヲ命ス(註同)
海軍主計大尉 高橋 弘	第百二海軍經理部ニ要スル給與及其ノ他ノ經費支拂ノ爲艦隊經費分任出納官吏ヲ命ス
大湊海軍經理部 具海軍主計大尉 芝 直昭	艦隊經費分任出納官吏ヲ命ス(以上 <small>二十</small> 支出官 海軍省經理局長)
同 三代 辰吉	
同 廣瀬 弘	
同 皆川 延利	
同 青木 武	
同 魚住 頼一	
海軍少佐 黒木 照男	
同 鷹尾 卓海	
同 中山 義則	
同 佃 定雄	
海軍機關大佐 浦野 角造	
海軍機關中佐 渡部 正春	
同 熱田 佐太郎	
同 金井 倉太郎	
同 田中 千春	
同 林 輝武	
同 市村 忠逸郎	
同 安田 收藏	
同 日高 安壯	
同 和田 五郎	
同 江島 武夫	
同 伊澤 達雄	

(各通)

○ 雜 款

○ 將旗撤去
第十二航空戰隊司令官ハ二月二日神川丸ヨリ將旗ヲ撤去セリ

○ 郵便物發送先
自今左ニ依リ發送相成度
吳郵便局氣付 矢野部隊
(吳鎮守府第三特別陸戰隊)

○ 事務開始
吳鎮守府第三海軍特別陸戰隊ハ二月一日吳海兵團内ニ於テ事務ヲ開始セリ

○ 訂正
一月二十八日九三頁辭令欄下段河南信治ノ辭令月日ヲ一月十九日ニ訂正ス

海軍公報 (部内限) 號外

海軍大臣官房

昭和十七年二月五日(木)

○通牒

海人第二號ノ四一

昭和十七年二月二日

海軍省人事局長

關係各廳長殿

戰歿者ノ海軍葬喪等ニ關スル件通牒

大東亞戰爭ニ因ル戰歿者ノ海軍葬喪ノ管理其ノ他ニ關

スル件ノ通定メラル候

記

一 海軍葬喪管理區分

戰歿者官職階等

葬喪ヲ管理スル鎮守府

士官

遺族現住地所管ノ鎮守府
但シ同一艦船部隊ニ於テ略同
時機ニ戰歿シタル部下特務士
官以下アル場合ハ部下特務士
官以下ノ在籍鎮守府ニ於テ同

海軍公報 (部内限) 號外

時ニ合同海軍葬喪ヲ執行スル
ヲ例トス

特務士官
准士官
下士官
兵

在籍ノ鎮守府

軍屬

鎮守府ニ在籍スル者ハ當該鎮守
府
右以外ハ遺族現住地所管ノ鎮守
府

備考

(一) 士官ノ遺族氏名竝ニ其ノ現住所ニ就テハ海
軍省人事局ヨリ又鎮守府ニ籍ヲ有セザル軍屬
ノ遺族氏名竝ニ其ノ現住所ニ就テハ其ノ屬セ
シ應ヨリ葬喪ヲ管理スベキ鎮守府ノ海軍人事
部ニ速ニ通知スルモノトス
(二) 士官ノ葬喪ニ關シテハ其ノ遺族ノ希望又ハ
其ノ他ノ事情ニ依リ前記ノ管理區分ニ依ラザ
ルコトアルベシ此ノ場合ニ在リテハ海軍省人
事局ヨリ關係各部ニ速ニ其ノ旨通知スルモノ

トス

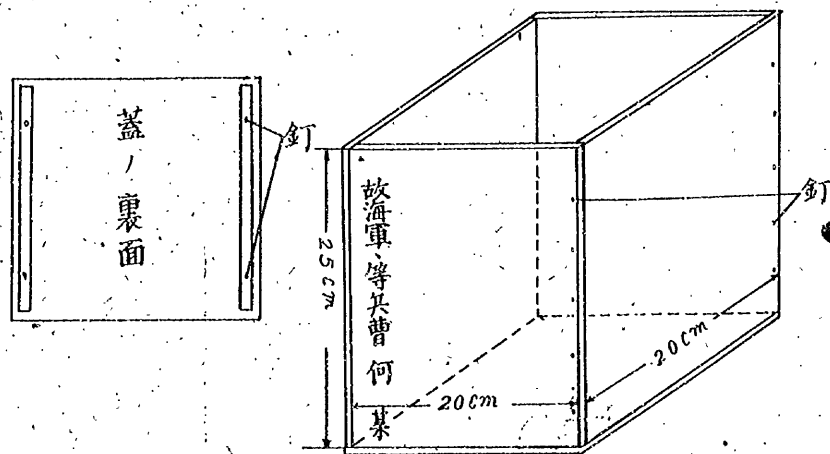
二 遺骨ノ還送

(イ) 遺骨ノ内地到着地ヨリ海軍葬喪ヲ執行セラルベキ地迄ノ還送ハ最近ノ艦船便ニ依ルヲ例トス但シ最近便ノ艦船便無キトキハ當該鎮守府又ハ葬喪執行地ノ廳ヨリ到着地ニ適當ナル人員ヲ派遣シ之ヲ出迎受取ルヲ例トス

(ロ) 海軍葬喪後遺骨郷里ニ歸還ノ際ハ成ルベク海軍軍人ノ附添ヲ出ネ如ク取計フモノトス

三 遺骨箱ノ形式標準

遺骨ヲ内地ニ還送ノ際ハ概ネ左ノ標準ニ依ル遺骨箱ヲ作製シ官職階氏名ヲ明記ノ上輸送スルモノトス



(限 内 部)

海軍公報 (部内限) 第四千十三號

昭和十七年二月六日(金)
海軍大臣官房

○通牒

軍需機密燃第七一號

昭和十七年一月十五日

海軍省軍需局長
海軍省經理局長

關係各廳長殿

燃料繰替官給單價ニ關スル件通牒

昭和十五年軍需機密燃第一四八號通牒ハ本日限り廢止
致候

(參照) 昭和十五年軍需機密燃第一四八號(昭和十五年四月二十七日海軍公報(部内限)參照)ハ當分ノ開民間工場ニ重油ヲ有價官給シタル場合ハ適當リ繰用重油六〇四一號重油七五四トスル件ナリ

經豫機密第三號ノ二三

昭和十七年二月五日

海軍省經理局長
關係各支出官、資金前渡官吏殿

海軍公報(部内限) 第四千十三號 昭和十七年二月六日

日本銀行代理店設置ノ件通知

廣島縣大竹町及南洋マージナル群島クエゼリン本島ニ日本銀行代理店ヲ設置シ左記期日ヨリ事務取扱開始ノ旨大藏省ヨリ通知有之候

追而クエゼリン本島ニ設置ノ代理店ハ機密保持ノ必要上日本銀行伊代理店ト稱シ同代理店ニ於ケル他店取引ハ當分ノ間日本銀行本店及横須賀、トラツク兩代理店間ニ限ルコト相成候

記

二月一日

日本銀行大竹代理店

二月十日

日本銀行伊代理店

○辭令

海軍主計大尉 大山 正雄
第百二海軍工作部ニ要スル給與及其ノ他ノ經費支拂ノ爲艦隊經費分任出納官吏ヲ命ス(三三)支出官 海軍省經理局長)

海軍軍醫少佐 近藤 美之
第一課兼第二課勤務ヲ命ス(二十五日海軍省教育局)

○ 雜 款

○郵便物發送先
自今左ニ依リ發送相成度
横須賀郵便局氣付 九〇七五
(第六潜水艦基地隊)

○事務所設置
第二百海軍工作部事務所ヲ一月二十八日海軍省第一分
室内ニ設置シ事務ヲ開始セリ



(限 内 部)

海軍公報 (部内限) 第四千十四號

昭和十七年二月七日(土)
海軍大臣官房

○令 達

官房第六二二號
昭和十六年度歳出科目中左ノ通追加ス
昭和十七年二月六日

臨時部 海軍大臣

款	項	目	節	解 疏	會計科目 電信略號
水陸 整備費	防備部隊 設備費	横須賀海兵 團設備費	雜船費		ソス

官房機密第一四〇八號ノニ
昭和十七年二月六日
ニテ本機密ヲ止メテ
當分ノ間艦隊指揮下ニ在ル普通經費支辨ノ艦船部隊ニ
要スル經費ハ艦隊經費支辨ト爲スコトヲ得
本令ハ昭和十七年二月一日ヨリ之ヲ適用ス

官房機密第一七一號 左表ニ依リ海軍機雷學校特修科學生ヲ採用ス 昭和十七年二月七日	特修科目 水中測的術及投射術	採用資格 掌機雷兵又ハ掌水雷兵出身ノ兵科 特務士官又ハ准士官ニシテ水中測 的術及投射術ヲ修習セシムルニ適 スル者	入 校 期 日	探 用 員 數
海軍大臣	水中測的術及投射術	掌機雷兵又ハ掌水雷兵出身ノ兵科 特務士官又ハ准士官ニシテ水中測 的術及投射術ヲ修習セシムルニ適 スル者	昭和十七年 二月下旬	計
			昭和十七年 六月上旬	横須賀鎮守府
			昭和十七年 九月上旬	吳鎮守府
			昭和十七年 七月上旬	佐世保鎮守府
				舞鶴鎮守府
				四
				四
				四
				四

海軍公報(部内限) 第四千十四號 昭和十七年二月七日

修業期間 約三月 同上 同上 同上

○辭令

(各通)

南洋應事務官 山野 雄吉
農林技師 片岡 九一郎
農林技手 木南 喜代治

第四艦隊司令部附ヲ命ス(海軍省)

内務事務官 山田 誠

(各通)

同 岩永 賢一
農林技師 石井 磐根
食糧管理局技手 會田 嘉一郎

第四艦隊司令部附ヲ命ス(同)

(各通)

農林事務官 角田 孟紀
農林技手 山下 肅郎

第三艦隊司令部附ヲ命ス

(各通)

大藏事務官 村上 孝太郎
大藏屬 森本 磐夫

第四艦隊司令部附ヲ命ス(以上同)

(各通)

大藏事務官 小林 章
貯蓄獎勵局事務官 岩動 道行

第三艦隊司令部附ヲ命ス

(各通)

大藏屬 米澤 三郎
内務屬 清水加保太郎
同 中村 洋三郎

第四艦隊司令部附ヲ命ス(以上同)

海軍技術會議議員海軍少將 鈴木 新治
海軍艦政本部技術會議議員ヲ命ス(同)
海軍少佐 森 富士雄

第一課勤務ヲ命ス(海軍省人事局)

○雜款

○郵便物發送先
自今左ニ依リ發送相成度

佐世保郵便局氣付 海軍小木會部隊
(佐世保鎮守府第三特別陸戰隊)

○航空便使用ノ件照會
内地方面ヨリ當府宛郵便物ハ自今總テ(書類ノ輕重ノ
間ハズ)軍事航空郵便ニテ發送相成度
(南洋群島在勤海軍武官)

○事務開始

佐世保鎮守府第三特別陸戰隊ハ二月一日佐世保第一海

兵團内ニ於テ事務ヲ開始セリ

○家族移轉ニ關スル件
當隊ヘノ赴任(轉勤)者ハ現地ノ狀況ニ鑑ミ當分ノ間
家族ヲ移轉セザル様承知相成度
(三澤海軍航空隊(假稱)設立準備委員長)

海軍公報(部内限)第四千十四號 昭和十七年二月七日

一三五

1209

(限 内 部)

海軍公報(部内限)第四千十五號

○ 令 達

官房第六七四號
海軍工作廳、海軍燃料廠、海軍軍需部共ノ他官衙學校ニ在リテハ所屬雇員、傭人、工具及傭員(以下従業員ト稱ス)ヲ以テ組織又ハ加入スル海軍報國團ノ費用ニ充ツル爲該従業員一人ニ付年額六十錢以内ヲ支出スルコトヲ得

昭和十七年二月七日

海 軍 大 臣

官房第六七五號

海軍報國團ノ經費ニ關シ左ノ通定ム

昭和十七年二月七日

海 軍 大 臣

記

一 海軍報國團ノ經費ニ充ツベキ收入ハ左ノ各號ニ依ル

昭和十七年二月九日(月)

海軍大臣官房

(一) 團員據出金 別ニ定ムル所ニ依ル	(イ) 官補助金 昭和十七年官房第六七四號ニ依ル	項 目	(一) 報國精神 ノ昂揚ニ關 スルモノ	費 途	(イ) 精神指導ニ關スル研究會、講習會、講演會、映畫會、修養會、演劇會、展覽會及精神訓練ニ要スル費用
	(ロ) 其ノ他雜入 前各號ノ預金利子、寄附金等		(イ) 殉職者慰靈祭ニ要スル費用		
(二) 能力増進	(イ) 傳ニ要スル費用 ポスター、パンフレット等宜				(イ) 精神指導ニ關スル研究會、講習會、講演會、映畫會、修養會、演劇會、展覽會及精神訓練ニ要スル費用

海軍公報(部内限)第四千十五號 昭和十七年二月九日

一三七

				(三) 福利共済 ニ關スルモ (イ) 團員及家族ノ慶弔ニ要スル費用 (ロ) 團員及家族罹災時ノ慰問ニ要スル費用 (ハ) 福利共済ニ關スル研究會、講習會等ニ要スル費用		(四) 生活刷新 ニ關スルモ (イ) 人事、居住等ノ相談斡旋ニ要スル費用 (ロ) 結婚、葬儀等日常生活ノ冗費節約指導ニ資スル爲要スル費用 (ハ) 料理、物資利用更生、虚禮廢止、貯蓄、餘暇善用其ノ他私生活指導等ニ關スル講習、講演、展覽會等ニ要スル費用 (ニ) 書道、繪畫其ノ他趣味生活指導ニ關スル講習、講演、展覽會等ニ要スル費用 (ホ) ポスター、パンフレット等宜	
				(五) 銃後後援 ニ關スルモ (イ) 團員中ノ出征軍人及傷病軍人ニ對スル慰問ニ要スル費用 (ロ) 團員中ノ出征軍人及傷病軍人ノ家族並ニ戰歿軍人ノ遺家族慰問ニ要スル費用 (ハ) 團員中ノ戰歿軍人慰靈祭ニ要スル費用 (ニ) ポスター、パンフレット等宜傳ニ要スル費用		(六) 慰安娛樂 ニ關スルモ (イ) 海水浴、運動會、遠足會等ニ要スル費用 (ロ) 演藝會、慰安會ニ要スル費用	
(九) 雜費 (イ) 通信費		(八) 青年隊ニ關スルモノ (イ) 青年隊訓練ニ要スル費用		(七) 會議ニ關スルモノ (イ) 中央役員會議ニ要スル費用 (ロ) 地方役員會議ニ要スル費用 (ハ) 懇談會ニ要スル費用			

1211

(ロ) 交通費等ニシテ團長ニ於テ特ニ必要ト認メタル費用
 (ハ) (一)乃至(六)各項目ニ關スル圖書購入ニ要スル費用

前項ノ區分ニ依リ難キ場合ハ團長ハ所屬長官ノ認許ヲ受クベシ

官房第六七六號

昭和十五年官房第三八二〇號中第二項第二號ヲ第三號トシ以下順次繰下グ第一號ノ次ニ左ノ一號ヲ加フ

(二) 海軍報國團

昭和十七年二月七日

海軍大臣

官房機密第一七二七號

昭和十六年官房機密第一〇六四九號中左ノ通改正ス本年官房機密第二四四號ハ之ヲ廢止ス

昭和十七年二月七日

海軍大臣

第一號表ヲ左ノ如ク改ム

海軍公報(部内限) 第四千十五號 昭和十七年二月九日

外貨軍票ノ種類

使用地域

グルデン軍票(は號)

蘭領東印度

ドル軍票(に號)

英領マレー

ペソ軍票(ほ號)

英領ボルネオ

ルビー軍票(へ號)

比律賓

ポンド軍票(と號)

濠洲聯邦委任統治領

(参照) 昭和十六年官房機密第一〇六四九號ハ當分ノ開南方作戦地域ニ於テハ外貨ヲ以テ表示スル軍用手票使用ノ件ナリ
 本年官房機密第二四四號ハ「ビルマ」ニ於テハ特ニ指示スル迄「ドル」軍票(に號)使用ノ件ナリ

○通牒

官房第七〇七號

昭和十七年二月九日

海軍省副官

關係各廳長殿

海軍軍用郵便所ニ一般公衆通信ヲ取扱ハ

海軍諸君
 則登載

一三九

シムル件通牒

艦船ニ設置シアル海軍軍用郵便所ニ於テ該艦船ガ内地及外地ノ軍港要港等ニ入港シタル場合左ノ業務ヲ取扱ヒ軍人軍屬ヲシテ利用セシムルコトト相成候條了知相成度

記

- 一 内國及日滿書留通常郵便物ノ引受
- 二 内國及日滿小爲替ノ振出及拂渡
- 三 郵便貯金ノ預入及即時拂
- 四 郵便振替貯金及日滿郵便振替ノ拂込但シ電信拂込及證券ニ依ル拂込ヲ除ク

官房第七〇八號

昭和十七年二月九日

海軍省 副官

關係各廳長殿

事變關係市外通話優先取扱ニ關スル件通牒

昭和十四年三月三十日附官房第一六四號首題通牒申左記ノ通改メ候

記

「阪神海軍部電話番號土佐堀二八六〇番」ヲ「大阪警備

府電話番號土佐堀一六五〇」ニ改ム

經監一第二一號

昭和十七年二月七日

海軍省 經理局長

關係各所轄長殿

海軍會計監督規程第十一條ノ解釋ニ關スル件通牒

海軍會計監督規程第八條第四號及第九條ノ規定ニ依ル帳簿及金櫃ノ檢査ニシテ所轄長遠隔ノ地ニ在リ之ヲ爲スコト能ハザル場合ニ於テハ之ヲ同規程第十一條ノ「特別ノ事由アル場合」ニ該當スルコトニ解釋ヲ一定致候

經給第二三號

昭和十七年二月七日

海軍省 經理局長

關係各廳長殿

海軍報國團ニ對スル經費支出ニ關スル件通牒

今般官房第六七四號ヲ以テ海軍報國團ニ對スル經費ノ支出標準ヲ定メラレ候處該經費ノ支出ニ當リテハ左記

ニ依リ處理相成度

記

- 一 各部ニ於ケル所屬從業員ノ毎月一日現在員數ニ對シ一人當月額五錢以內トス
- 二 前號ノ經費ハ其ノ月ニ於ケル從業員ノ給料又ハ賃錢支給定日迄ニ之ヲ該從業員ノ屬スル海軍報國團ノ團長ニ交付スルモノトス
- 三 支辨科目ハ左ノ通トス
 - (イ) 給料又ハ賃錢ノ基本科目ト同項中ノ雜件費但シ工作廳工員ニ對シテハ附屬費
 - (ロ) 前號ノ外給料又ハ賃錢ノ基本科目

○雜款

○郵便物發送先

自今左ニ依リ發送相成度

司令宛

主計長宛

機關長、軍醫長宛

刈 登

朝 顔

美 蓉

(第三十二驅逐隊)

○練習生採用試験問題發送

第十二期丙種飛行豫科練習生採用試験問題

右一月二十八日左記ノ通發送濟、未着又ハ別ニ必要ノ向ハ至急御通知相成度

記

- 一 單獨試験豫定各部ハ直送
- 一 聯合試験用ノモノハ各人事部長、各警備府副官宛送付
- 一 行動其ノ他ノ都合ニ依リ聯合試験參加不能ノ向ニ對スル分トシテ各人事部長、各警備府副官宛若干部送付

(第十一聯合航空隊司令部)

○事務所撤去

日進艦裝具事務所ヲ一月二十八日撤去セリ

伊號第二十八潜水艦裝具事務所ヲ二月五日撤去セリ

○移轉

第百二海軍工作部事務所ヲ二月九日吳海軍工廠内ニ移轉ス

(限 内 部)

海軍公報 (部内限) 號外

○ 令 達

官房第六二三號

艦營需品定額表中數量左ノ通改正ス

昭和十七年二月六日

砲術長主管

海 軍 大 臣

昭和十七年二月九日(月)

海軍大臣官房

戰		艦 船 部 隊 名 稱	區 別	類 別 番 號	品 名	數 量	個	消 耗 品	同	同	記 事
扶桑、山城、伊勢、日向	長門、陸奥										
一一〇	一一〇	個	一一類	毯包革	個	同	同	一一類			
六〇	六四	個		毯包ゴム	個	同	同				
六〇	六四	個		毯包	個	同	同				
一一〇	一一〇	個			個	同	同				

海軍公報 (部内限) 號外

1215

母	空	航	艦洋巡等二				習練	等艦	一巡	習練	艦			
瑞鳳	蒼龍、飛龍	加賀、赤城、翔鶴	鳳翔	筑摩	最上、三隈、鈴谷、熊野、利根	怒、阿武隈、那珂、川内、神通	球磨、多摩、北上、大井、木曾、長良、五十鈴、名取、由良、鬼怒、阿武隈、那珂、川内、神通	天龍、龍田、夕張	香取、鹿島、香椎	加古、古鷹、衣笠、青葉	愛宕、鳥海、摩耶	妙高、那智、足柄、羽黑、高雄	比叡	金剛、榛名、霧島
六八	八八	一二〇	三二	八〇	三二	三二	二〇	四八	五〇	六八	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇
三四	四四	六〇	一六	四〇	一六	一六	一〇	二四	二五	三四	五〇	五〇	五〇	五〇
三四	四四	六〇	一六	四〇	一六	一六	一〇	二四	二五	三四	五〇	五〇	五〇	五〇

艦防海	艦 設 敷					艦 母 水 潜			艦 母 機 上 水			艦	
	常磐	勝力、白鷹、八重山	津輕	巖島、沖島	初鷹、若鷹、蒼鷹	駒橋	大鯨	迅鯨、長鯨	秋津洲	千歳、千代田、瑞穂、日進	神威、能登呂	龍驤	瑞鶴
占守、國後、八丈、石垣													
一二	四〇	一二	二八	二〇	一六	一二	四〇	二〇	二四	六〇	一二	四〇	一六〇
六	二〇	六	一四	一〇	八	六	二〇	一〇	一二	三〇	六	二〇	八〇
六	二〇	六	一四	一〇	八	六	二〇	一〇	一二	三〇	六	二〇	八〇

逐 驅 等 一		艦 砲		
陽炎、不知火、黒潮、親潮、夏潮	吹雪、初雪、白雪、叢雲、薄雲 白雲、磯波、浦波、綾波、敷波 天霧、夕霧、朝霧、朧、曙、漣 潮、曉、響、雷、電、初春 子日、若葉、初霜、有明、夕暮 白露、時雨、村雨、夕立、春雨 五月雨、海風、山風、江風、涼風 朝潮、大潮、滿潮、荒潮、朝雲 山雲、夏雲、峯雲、霞、霞	伏見、隅田、多々良	熱海	安宅、鳥羽、嵯峨、勢多、堅田 比良、保津、二見、橋立、宇治
	一六	一六	二〇	一二
	八	八	一〇	六
	八	八	一〇	六

海	艦	務	特	艇海掃	艇雷水	等艦逐驅	艦				
同 第二	横須賀第一	大泊	知床、尻矢、筑紫、襟裳、石廊、隠戸、間宮、室戸、鶴見、宗谷	檜野	鳴戸	明石	自第一號至第五號、自第七號至第九號、自第十一號至第二十號	千鳥、真鶴、友鶴、初雁、鴻、鴨、隼、鶴、雉、雁、鷺、鳩	早苗、栗、梅、蓮	朝顔、芙蓉、刈萱、若竹、吳竹	初風、雪風、磯風、早潮、天津風、時津風、浦風、濱風、谷風、野分、萩風、嵐、舞風、秋雲、夕雲、卷雲、風雲、長波、秋月
七、三〇〇	一、七〇〇	八	一二	一六	二〇	四〇	一二	一二	八	二〇	二〇
三、六五〇	八五〇	四	六	八	一〇	二〇	六	六	四	一〇	一〇
三、六五〇	八五〇	四	六	八	一〇	二〇	六	六	四	一〇	一〇

		旅順警備府		警備隊		防備隊				兵團				
同	横須賀	舞鶴	横須賀、吳、佐世保	大湊、馬公、鎮海、羅津	舞鶴	佐世保	佐伯	横須賀	舞鶴	同 第二	佐世保第一	大竹	吳	
二〇〇	九七〇	二八	九二	一〇〇	四〇	一五〇	八四	一〇〇	五二	一、三三〇	五、五〇〇	三八〇	五、八八〇	四〇〇
一〇〇	四八五	一四	四六	五〇	二〇	七五	四二	五〇	二六	六六五	二、七五〇	一九〇	二、九四〇	二〇〇
一〇〇	四八五	一四	四六	五〇	二〇	七五	四二	五〇	二六	六六五	二、七五〇	一九〇	二、九四〇	二〇〇

航			軍			海						
美幌、宇佐、博多、鹿島 (北浦分遣隊)	千歳	佐世保、佐伯、横濱	吳、霞ヶ浦 (東京、名古屋各分遣隊)、大湊	木更津、佐世保 (出水分遣隊)	土浦	大井	鈴鹿	筑波	鹿島、小松島	谷田部、百里原、鹿屋、元山、臺南、東港	館山	霞ヶ浦
一六〇	一八〇	六〇	四〇	八〇	一、七五〇	三六〇	四六〇	六八	一二八	一二〇	一五二	
八〇	九〇	三〇	二〇	四〇	八七五	一八〇	二三〇	三四	六四	六〇	七六	
八〇	九〇	三〇	二〇	四〇	八七五	一八〇	二三〇	三四	六四	六〇	七六	

上海特別陸戰隊	隊						空	
	鎮海	高雄	父島	大村	大分	岩國	三澤	舞鶴
二、〇〇〇	四八	一三六	五二	九〇	二五〇	二八〇	四二〇	四四
一、〇〇〇	二四	六八	二六	四五	一二五	一四〇	二一〇	二二
一、〇〇〇	二四	六八	二六	四五	一二五	一四〇	二一〇	二二

備品第二類 電池甲

消耗品第七類 電球一號、同二號

同 第十二類 乾電池甲

- 一、他主管渡欄及合計欄數量ハ從來航海長主管ニ供給シタル數量ヲ減シタルモノトス
- 二、他主管ニ供給スル備品及消耗品内譯中ノ數量ハ前號ニ同シ

海軍公報(部内限)第四千十六號

昭和十七年二月十日(火)
海軍大臣官房

○通牒

軍務一機密第八六號

昭和十七年二月五日

海軍省軍務局長

各鎮守府參謀長
各艦隊參謀長 殿

戰時潜水艦乗員及航空機搭乗員等ノ保健ニ關スル施設其ノ他ノ件申進

首題ノ件左記ノ通定メラレ候條可然取計相成度

記

一 要旨

戰地ヨリ内地ニ歸投セル潜水艦乗員及航空機搭乗員等ヲシテ成ルベク速ニ疲勞及體力ヲ恢復シ次期作戰行動ニ支障ナカラシムル爲各軍港附近ニ保健場ヲ設ケ右人員ニ對シ適當ナル保健療養法ヲ實施セシムルニ在リ

二 施設要領

(一) 保健場ハ所要ノ際各鎮守府毎ニ之ヲ設ケ其ノ所在地ヲ概ネ左ノ方面溫泉地トス

横須賀 伊豆又ハ塩原方面

吳 山口又ハ別府方面

佐世保 長崎又ハ佐賀方面

舞鶴 北陸方面

右保健場ハ各當該鎮守府ノ管理トス

(二) 各保健場ハ各鎮守府ニ於テ當該溫泉地所在ノ「ホテル」及旅館等ヲ所要期間借用契約ノ上ニ充ツ

右ノ外目下建設中ノ木更津海軍保健所、別府海軍水交支社其ノ他之ニ準ズル施設ヲ右保健場トシテ利用スルモノトス

(三) 保健場ハ准士官以上及下士官兵ニ分チ且下士官兵ハ成ルベク各基本部毎ニ適當ニ區分シテ設クルモノトス

保健場内ニ於ケル居室標準概ネ左ノ如シ
佐官 以上 一人一室

海軍公報(部内限)第四千十六號 昭和十七年二月十日

一四三

尉官、特務士官以下 二人乃至數人入室

三 保健場使用要領

- (一) 保健場ヲ使用セシムベキ人員ヲ左ノ通トス
 - イ 戰地ヨリ軍港ニ歸投セル潜水艦乗員中所轄長
 - ロ 其ノ必要アリト認メタルモノ
 - ハ 戰地ヨリ内地ニ歸投セル航空機搭乗員ニシテ
 - ニ 所轄長ニ於テ心身ノ疲勞著シキモノト認メタルモノ
- (二) 右ノ外海軍大臣ノ特令スルモノ
- (イ) 使用要領
 - イ 戰地勤務一行動(一月以上ヲ標準トス)毎ニ各七日以内トシ潜水艦乗員ハ各基本部毎ニ概ネ二回ニ分チ航空機搭乗員ハ其ノ員數ニ應ジ適宜區分ス
 - ロ 所轄長ハ保健場ヲ使用セントスル時ハ其ノ員數、期間及所要室數其ノ他必要ナル事項ヲ當該鎮守府ニ協議ス但シ所轄ニ以上ニ亘ル場合ハ潜水艦及航空隊毎ニ各所在先任指揮官之ヲ取纏メ行フモノトス
 - ハ 保健場ニ於ケル收容人員ノ身上取扱ハ艦(隊)内居住ニ準ズルモノトス

四 保健實施要領

- (一) 保健場ニ於ケル衛生及保健療養ノ實施要領ハ海軍省醫務局長ヨリ別ニ通知スル所ニ依ル外各基本長ノ定ムル所ニ依ル
 - (二) 保健場ニ於ケル日課週課ハ潜水艦及航空隊毎ニ各所在先任指揮官所定トス
 - (三) 保健場ニ於テハ保健場以外ノ宿泊ヲ許可セザルモノトス但シ所轄長ニ於テ特ニ許可セル者ハ此ノ限ニ在ラズ
- 五 經費
- 保健場施設其ノ他ニ要スル經費ハ官費支辨トス
- 經給機密第一一號
- 昭和十七年二月九日
- 海軍省 經理局
- 關係各廳御中
- 海軍戰時給與等ノ取扱方ニ關スル件中改正ノ件通牒
- 昭和十六年經給機密第四五號海軍戰時給與等ノ取扱方ニ關スル件中第二、第五號戰時特別給與品ノ項ハ支給區分ヲ左ノ通改ム

記

特例給與規則第十二條ニ基ツキ左ノ各號ニ依ル

(一) 戰時特別給與品經理規程第三條ニ依リ兵備品會計官吏ヨリ受込ミタルモノ及同經理規程第四條ニ依リ直接購買セルモノトヲ合セ特例給與規則第五表備考一、ニ定ムル豫算ノ範圍内ニテ支拂スルコトトス

(二) 兵備品會計官吏ヨリ受込ミタル戰時特別給與品ノ價格ハ兵備品會計官吏ノ送付票記載ノ單價ニ依ル

○ 辭 令

軍令部出仕海軍少佐 三上 作夫

第一部第一課勤務ヲ命ス

海軍主計中尉 堀川 多門

第三部第八課勤務ヲ命ス(三〇四軍令部)

海軍兵曹長 長瀬 多吉

通信部第十課勤務ヲ命ス(三〇四軍令部)

同 小佐野 力

通信部第十課勤務ヲ命ス(三〇四軍令部)

通信部第十課勤務ヲ命ス(三〇四軍令部)

同 荻野 治郎吉

(各通)

同 奥山 松之助

通信部第十課勤務ヲ命ス(三〇四軍令部)

同 三嶋 正造

(各通)

同 城戸 光正

通信部第十課勤務ヲ命ス(三〇四軍令部)

同 上原 輝樹

特務班勤務ヲ命ス(三〇四軍令部)

海軍中佐 芳根 廣雄

第一課勤務ヲ命ス

海軍中佐 神川 武夫

第三課兼第一課勤務ヲ命ス(以上三〇四海軍省教育局)

海軍機關中佐 小國 寛之輔

○ 雜 款

○郵便物發送先
自今左ニ依リ發送相成度

本更津海軍航空隊氣付 三澤海軍航空隊
(三澤海軍航空隊設立準備委員)

隊、司令、機關長、軍醫長、主計長宛

昌榮丸

(第一監視艇隊)

二月十三日迄ニ到達見込ノモノハ

海軍省構内第百二海軍經理部假事務所

二月二十三日迄ニ同

吳海軍經理部内 右

同

其ノ後ハ 吳郵便局氣付

第百二海軍經理部

(第百二海軍經理部)

○事務開始

第六十一海軍航空廠「マニラ」分工場二月二十日開設
事務ヲ開始セリ

○正誤

科

本月三日辭令欄中「一八頁下段三行目「海軍豫備學生」
ハ「海軍豫備學生(兵科)」ノ誤

1226

(限 内 部)

海軍公報 (部内限) 號外

昭和十七年二月十日 (火)
海軍大臣官房

○ 雜 款

○ 懲 罰

懲罰言渡書

海軍公報 (部内限) 號外

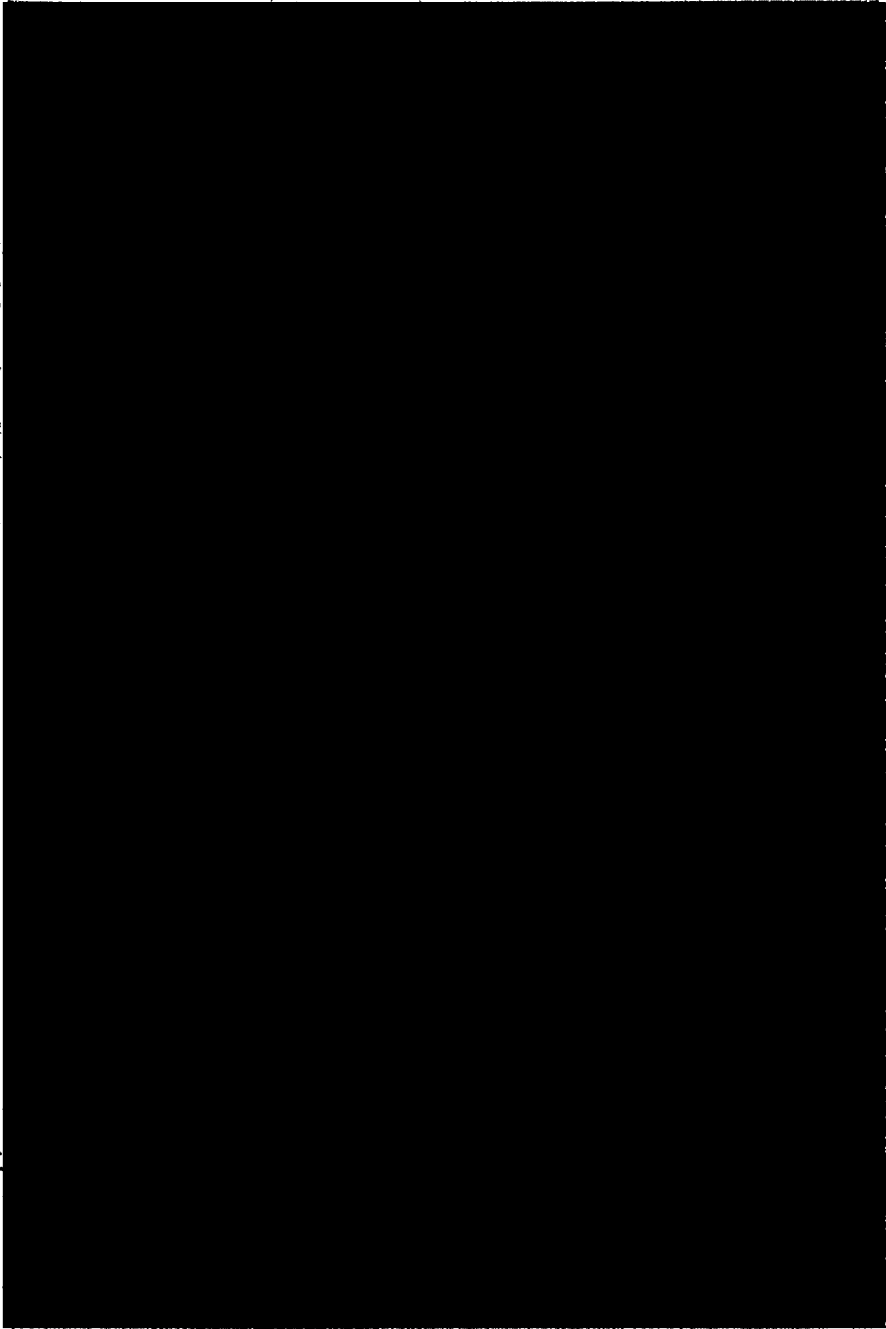
1227

海軍公報 (部内限) 號外

二

1228

海軍公報 (部内限) 號外



1229

海軍公報 (部内限) 號外

四

1230

海軍公報 (部内限) 號外

五

1231

国立公文書館 アジア歴史資料センター

Japan Center for Asian Historical Records

<http://www.jacar.go.jp>

海軍公報 (部内限) 號外

六

1232

海軍公報 (部内限) 號外

七

1233

海軍公報 (部内限) 附號外

八

1234

海軍公報 (部内限) 號外

九

1235

海軍公報 (部内限) 號外

一〇

1236

海軍公報 (部内限) 號外

1237

海軍公報 (部内限) 號外

一一一

1238